



Since 1996.3

谷戸は小さな宇宙そして桃源郷

# カワセミだより

2007年11月3日発行

## 『奈良川源流域を守る会』

会長／山田健一 <http://nara.yato.jp/> e-mail:nara@yato.jp

## 第10号

# 里山の自然環境の評価高まる 奈良川源流域の人と自然

奈良川源流域は、生態系豊かな貴重な里山です。わたしたちは一九九六年から十一年間にわたり、この奈良川源流域の豊かな自然を、次の世

### 奈良川源流域の貴重な自然

まず、奈良川源流域の豊かな自然と、その特徴をご紹介します。



奈良川源流域上空を飛ぶ、絶滅危惧種のサシバ。  
チョウゲンボウ、ツミは営巣が確認されている。

代の子どもたちに引き継ぐため、活動を続けてきました。奈良川は横浜市北部を流れる鶴見川の支流で、その源流域は、田んぼ、畑、樹林地、溜め池などが残る、いわゆる里山と呼ばれる環境が保全されています。これまで、この貴重な里山の自然が、近隣住民の皆さんや、行政、専門家などの関係者の皆さんに、どのように評価されてきたのか、を振り返ってみます。

- ①奈良川源流域は、農業用溜め池・本山池を擁した典型的な里山の特徴を備えており、現在でも田んぼや畑で営農が継続されています。また、日本人の心の原風景といわれている、里山の景観も保全されています。
- ②絶滅危惧Ⅱ類のサシバをはじめ、オオタカ、ハヤブサ、チョウゲンボウ、ツミなどの猛禽類が飛来、生息し、一部は営巣も確認されています。生態系の頂点に位置する猛禽類が生息することは、この里山の生態系の豊かさを示しています。
- ③本山池は、絶滅危惧種のゼニタナゴの神奈川県最後の生息地であり、「奈良川源流域を守る会」と、玉川大学、神奈川県水産技術センター内水面試験場と共同で増殖実験を行ってきました（「奈良川源流域を守る会」は、ゼニタナゴの復元実験で、WWFジャパンから助成金を受けています）。
- ④ヘイケボタルの自生地であり、エサのカワニナも生息しています。また、源流域部分の小川を復元すれば、ゲンジ

ボタルが復活する可能性が高い、と専門家によって指摘されています。

- ⑤本山池や田んぼがあるので、オオサギ、アオサギ、コサギ、カワウ、カルガモ、カワセミなどの水鳥が飛来、生息しています。その他、コジュケイ、ヨシキリ、アオバズク、コゲラ、アオゲラ、キジなどの野鳥が多数生息しています。
- ⑥タヌキ、リス、イタチ、アライグマ、ハクビシンなどのほ乳類が生息しています。
- ⑦オニヤンマ、ギンヤンマ、キンラン、ヤマユリ、サワガニなどの貴重な昆虫、植物、生物も多数生息しています。

現在、会員が中心となって、鳥類、昆虫、植物などの調査を進めています。

### 周辺住民の暮らしに密着 子ども達にも芽生える環境意識

奈良川源流域は、地域の皆さんの散策エリアとして、また、子どもたちが自然と触れあう場としても親しまれてきました。この十一年の間、里山の自然と人どのように付き合ってきたか見てみます。

- ①近隣の小学校の環境教育の場としても利用されてきたので、小学生の自然環境に対する関心も高まり、身近な自然を守りたいという意識も芽生えてきています。当会も小学校の環境教育に協力し、地域教育の一端を担っています。
- ②二〇〇四年に神奈川県教育委員会が制



ナナフシ君

作した、主に小学生の「総合的な学習の時間」のための教育番組「わくわくチャレンジ―自然たいけんにでかけよう」で、奈良川源流域と「奈良川源流域を守る会」の活動がテレビ放映されたこともあり、小学生が里山環境の中で遊びながら、自然に親しみ、自然から学ぶようになってきています。

③二〇〇五年にNHKが企画した、テレビの番組づくりを体験しながら、放送の仕組みを知ってもらおうという「NHK放送体験クラブ」に、近隣の奈良小学校の5年生が参加し、NHK横浜放送局のスタジオで自分たちの番組を制作しました。生徒自身が、キャスターやレポーターになって構成、取材を行い、制作したもので、五年生の四クラスのうち二クラスが、「奈良川源流域を守る会」の活動を紹介し、「一日遊んでも飽きないところ」「この環境を守っていきたい」と奈良川源流域をレポートしています。

④奈良川源流域奥の土橋谷戸の田んぼ沿いの道が、青葉区が配布した「わいわいの道マップ」で、「青葉区で一番好きな道」に選ばれています。

⑤里山のガイドブックで紹介され、近郊から当地へ里山ハイキングにくる人が増えています。

⑥その他、当会では、土橋谷戸の田んぼを望む花壇の手入れ、里山公園の自主管理、里山の生物調査（鳥、植物、昆虫等）、里山まつりなどを継続して行っています。

### 横浜都市計画 マスタープランでの位置づけ

奈良川の源流域は、横浜都市計画マスタープランにおける青葉区プランのなかで、青葉区の水と緑の軸に指定されています。同プランから、奈良川源流域に

関係のあるところを抜粋してみます。

### 快適な水辺環境の創出

青葉区の原因風景である水と緑の軸となる鶴見川（谷本川）、恩田川・奈良川、早淵川とその周辺の田園風景を保全し、多様な生物が生息する環境の保全・回復を図ります。



奈良川源流域に飛来したオオタカ

### 景観づくりの指針

【眺望を考慮した景観づくり】  
谷戸の風景、丘からの眺め、田園風景から丘の風景への視界の広がり、道路からの見通しなど、眺望を考慮した景観づくりを進めます。優良な農地や樹林地、斜面緑地、街路樹の保全・育成を進めるとともに、眺望に配慮した住宅地づくりなどを促進します。

として、中田横浜市長の政策の大きな柱のひとつである、緑の保全、創出に沿った青葉区プランになっています。

### 奈良川源流域に関わる 「鶴見川流域 水マスタープラン」の概要

さらに、横浜は、国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所の主導で、平成十六年八月二日に鶴見川流域水協議会が策定した「鶴見川流域水マスタープラン」の実現に向けて、流域の市民、市民団体

企業、行政が一体となって推進していく、と宣言しています。  
次にその内容（抜粋）を紹介します。

★源流緑地―崖線緑地―沿川農地―河川の生態的ネットワークの健全化と散策、学習・交流  
奈良川、岩川、梅田川などの源流部に

ある谷戸の自然環境を保全する。  
人工化、単調化した本川・支川・水路を改善し、自然環境の回復・創出をはかり、谷戸や水路、水田などの生態的ネットワークをつくることともに、非常時には防災用水として活用する。  
崖線緑地の保全をはかるとともに、斜面住宅地などの緑化を推進する。  
川沿いの散策路整備によって、公園緑地、尾根道などをつなぐとともに、休憩、学習、親水拠点を設置し、これらのネットワークを活用して流域での防災・環境学習、市民交流を促進する。

★沿川の水田、丘陵地の畑など農地を保全  
治水農地などの制度的な担保によって、水田を保全するとともに、農地の盛土抑制を徹底し、遊水機能を確保する。  
沿川の田園景観、崖線樹林景観を一体的に保全する。  
調整区域内の公共事業においては、遊水保水機能を代替する施設を設置する。

★環境保全型、交流型農業の振興  
有機農法、無農薬農法などにより、流域環境に負荷をかけない都市農業を推進する。  
農産品の産地直売を推進し、流域内互助の仕組みをつくる。

### 「奈良川源流域」を 含むその他の構想

「緑の回廊」構想  
東京都の八王子、日野、多摩、稲城、町田市と神奈川県横浜、川崎、相模原、

横須賀、鎌倉、逗子、三浦市と葉山町が参加し、首都圏各地の緑をつなぐ散策路を整備する「緑の回廊」構想に、奈良川源流域も含まれています。

### 横浜市の「水と緑の回廊」構想

鶴見川流域における広域の水と緑の回廊のなかで、奈良川源流域は、横浜市のこどもの国周辺の緑の七大拠点構成する地域として、また、郊外に位置し、河川や支川の水源である、まとまった樹林地や農地としての特性を備えている地域として、次の施策の方向性が示されています。

- ア 樹林地や農地の優先的な保全
- イ 「よこはま未来の森」としての保全・活用
- ウ 多様な生物の生息空間の確保
- エ 家族で楽しめるレクリエーション空間の整備

また、玉川大学内の本山池周辺は、横浜市との協定緑地として保全されていて、奈良川源流域の一部となっています。

「奈良川源流域を守る会」が活動を始めた十一年前の時点で、すでに、多自然型の川づくりや、里山環境を保全し、復元しなければならぬという声は、専門家だけでなく、一般市民の間でも高まっています。また、生態系豊かな里山環境を一度破壊すれば、復元することは難しいということも言われていました。

現在、中田横浜市長の強力なリーダーシップのもと、横浜市もこれまで以上に環境に配慮した先進的な政策に取り組んでいるように見受けられます。「奈良川源流域を守る会」でも、奈良川源流域の里山環境を破壊することなく次の世代に引き継いでいけるよう、力を合わせ活動を続けていきたいと思っています。

〔平成十九年四月一日〕

## お花見会十里山吟行

今年のお花見会は、俳句の吟行も兼ね、大島桜をはじめとする、里山の名花・名木を訪ねながら、その美しさを十分満喫しました。また、俳句にすることで、皆さん、自然の中に、新しい驚き、発見があったようです。会員で、結社同人（二名）の方以外は、慣れない俳句作りでしたが、皆さん句を披露しながら楽しんでいました。

花の酒角煮の肉か今朝の那覇

食山人

花の宴インカの風の吹き渡る

一子

うぐひすの声の清らか雑木山

T・W

風に舞ふ花片まぶし谷戸の里

ますお

風立ちてはや散り初めし桜花

節夫

花の昼草に寝ころび耳すます

崇文

初蛙あち見こち見の畦の子等

博

花吹雪けふは娘の発つ日なり

和子

花筵インカの曲は「花祭」

みづ

花びらと見まごうばかり春の蝶

美那子

さくら散る槌音ひびく屋根修理

愛雨

花に酔ひインカの笛を吹く男

桜子

筍の先につまずき里山路

秋明

（以上旧仮名にて）



〔平成十九年五月十九日〕

## 初夏のバードウォッチング

講師：仲俣申喜男先生（日本野鳥の会）

参加人員：約四十五名

フィールド：はらっぱ広場、土橋谷戸、本山池、東山尾根道、里山公園、

あいにくの雨模様でしたが、里山を巡りバードウォッチングしてから、自治会館で、鳥にまつわる珍しいお話をいろいろうかがいました。

仲俣先生「モズ（百舌）、という鳥は百の舌と書きますから、色々に鳴きます。アツジのサン・フランチェスコのように鳥と話ができると良いですね。

日本野鳥の会の創立者の中西悟堂さんは、スズメの声で人が来たかどうか解ったそうです」

質問「サシバが近所で確認されたんですが、少ないのですか？」

仲俣先生「サシバは渡り鳥です。昔はたくさんいましたがね。伊良湖岬や佐多岬に立ち寄るのは有名ですね。上昇気流が発生するときに、そこから飛び立っていくんです」

次から次へと楽しいお話がつづき、気がつくとお昼近くになっていました。

### 【見た鳥】

ムクドリ、カラス、チョウゲンボウ、ヒヨドリ、キジバト、メジロ、スズメ、ツバメ、ハクセキレイ、キジ、カルガモ、シジュウカラ、アオゲラ、ウグイス（声）、カケス、オオヨシキリ（声）、コジュケイ、ガビチョウ（声）、コゲラ（声）



カラスの巣を見る仲俣先生



〔平成十九年八月二十五日〕

## 昆虫観察会

講師：松香光夫先生（玉川大学）

アシスタント：宮川真理子さん

参加人員：約三十名

フィールド：はらっぱ広場

配付・回覧資料：

- ① 昆虫各目の容姿と系統（翅のつきかたに注目した資料）
- ② 里山公園で三年間に観察された生物リスト



大学生より熱心？

③②の写真リスト

④ 里山公園観察昆虫の代表的な種の入った標本箱

### 観察会スタート

十時ちょっと過ぎから、奈良上自治会館屋内にて観察会スタート。

司会の山田さんから本日の観察会のスケジュール説明があった後、松香先生にバトンタッチしました。

松香先生から、配付された資料などを使った昆虫の楽しいお話がありました。

### 虫の大きさの話

小さいものがほとんどだが、ヨナクニサン（八重山地方にいる蛾の一種）のように二〇センチ強のものもいる。

子供たちからはヘラクレスオオカブトとかアトラスオオカブトの声。みんなよく知っています。

### 昆虫のからだの特徴

足が六本、ハネ四枚。

ムカデ、クモ、ワラジムシのように足がいっぱいあるやつは昆虫（網）ではない。ハネのない昆虫（ノミなど）もいるが、

もともとあったのが退化した。先生が配付された資料はハネのかたちや付き方で昆虫のグループ（目）を分類したものだ。また先生に用意していただいた、奈良地区でよく見られる昆虫の標本を皆で観察しました。

### 分布の推移

奈良川源流域を守る会から配付した、里山公園夏期昆虫リストを見ながらの説

明。

モンキアゲハは南方系の蝶だが最近では奈良地区でも普通に見られるようになった。三十年ほど前はいなかった。温暖化の進行とともに昆虫の分布も変わってきている。



昆虫標本

「まだ少しでも朝の涼しさが残っているうちにフィールドで虫の観察をしましよ」ということで、一同勇んで虫採りに出かけました。

### フィールドでの活動

十時半から十一時半の一時間はフィールドで活動しました。子供たちが網をふるって元気に原っぱをかけまわる姿は、見ているこっちまでわくわくしてきます。

前日からしかけておいたベイトトラップ（地中埋め込みトラップ）を回収し、どんな虫が採れているか松香先生といっしょに観察しました。

### 今日の成果など

十一時半頃、暑いフィールドから涼し

い屋内に戻ってきて一息ついた後、先生といっしょに今日の成果などのお話をしました。

### どんな虫が採れたかな？

子供たちの虫籠にはチョウ、トンボ、バッタなどがわんざか入っていました。ベイトトラップにも、シデムシ、オサムシ、ハネカクシなどが入っていました。なぜかヨコエビが入っています。ヨコエビが入ったトラップのあった場所をはじめじめした水路跡でした。ヨコエビの間には陸生のものもいて、落葉や石の下などに棲息しているとのこと。

フィールドによる採れる虫の違い

奈良町はらっぱのような背の低い草地だと、バッタ、カマキリ、チョウ、トンボなどが採れますが、カブトムシ、クワガタは採れません。

### 昆虫の種類

現在地球上に棲息している昆虫は、確



トラップには、珍しい虫が。

認されているもので約百万種ぐらい。未確認／未発見種を入れるとこの十倍（二〇〇〇万種）ぐらいだろう。特に土中に棲息する種類については研究が進んでいないとのこと。土中昆虫を詳細に研究すれば国内でも新種発見はそう難しいことではないそうです。

### 参加者から松香先生に質問

Q

今日のフィールドでの観察では、同じ種類のバッタでも生れてすぐの小さいものや、かなり大きいものがありました。どうしてですか？

A

バッタの仲間には、幼虫と成虫の境がなく（不完全変態）小さい時から大体同じような身体付きで大きくなっていきます。成育段階が違う個体と同じ場所に住んでいることもあります。これらの個体は孵化の時期が違うもの

です。今日たくさん観察できたシヨウリヨウバッタの場合、タマゴが産みつけられる時期は秋で、これが越冬して六月から七月にかけて孵化します。

記者注

不完全変態とは「蛹を経ず幼虫が直接成虫に変態すること」であり、「幼虫と成虫の形態が良く似ていること」を指しているわけではありません。

Q

はらっぱには、カミキリムシはいませんか？

A

小型のカミキリムシの仲間には、はらっぱにいるものもいます。

カミキリムシの仲間は翅がきれいなものが多いですが、大顎で木をかじってだめにしてしまうので害虫扱いされています。幼虫は鉄砲虫と呼ばれています。

Q

タマムシも害虫ですか？ あんな綺麗な虫が害虫だとするとショックです。

A

害虫と言って良いと思います。



僕の見つけたトンボだ！



先生、この虫は何ですか？

ところで、タマムシの翅の色は翅自体に色があるのではなく、表面にあるこまかい凹凸で光を反射して色を出しているそうです。

見る角度によって色が変わるので、あまいな政策のことなどをタマムシ色と言ったりするんですね。

記者注

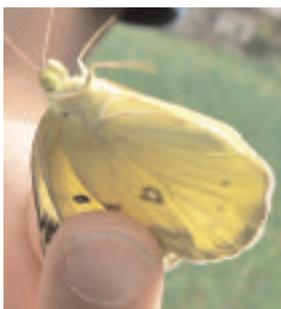
ヤマトタマムシの幼虫は枯木をエサにして育ち生木は食べません。一見食害はないように思えますが、伐採し貯木した時に産卵し建築や家具用途の材の価値を損なわせる、という意味で害虫と認識されているようです。またタマムシの仲間には、生木を食べ大規模な食害を発生させるものがたくさんいるようです

記者注

タマムシの翅は表面にこまかい凹凸がある層が十数層重なりあってできており、光の干渉によって見る角度による色の違いが出るそうです。原理としてはシャボン玉やCDの表面と同じです。

この他、虫にまつわる雑多な話題についても、楽しくお話いただきました。

十二時二十分頃 観察会を終了いたしました。参加いただいた皆様、暑い中お疲れ様でした。(I)



# 猛禽類が飛び交う

## 奈良川源流域

奈良川源流域では、過去の鳥類調査においてオオタカ、チョウゲンボウ等の猛禽類が確認されています。

2007年の鳥類調査は、これまでとは少し方法を変え、以下①～③の調査を実施しました。

### ① 随時調査

調査期間が長く、1回あたりの観察時間が短い調査

### ② ラインセンサス（個体数調査）

週1回、1時間程度の調査

### ③ 猛禽類定点調査

1日のみ、複数の定点での終日の調査

これらの調査において、現在のところサシバ、ツミ、オオタカ、チョウゲンボウの4種の猛禽類が確認されています。特にそのうちの2種、チョウゲンボウとツミについては繁殖を確認しましたので、以下に報告いたします。

# 猛禽類調査報告

## 調査期間

### ① 随時調査および② ラインセンサス

2007年3月日～9月8日

(以降も継続中)

### ③ 猛禽類定点調査

2007年6月3日

# チョウゲンボウ

(学名: *Falco tinnunculus*)



幼鳥 (6/13)

## 一般生態

農耕地、原野、川原などの上空でよく停空飛翔をして餌を探す茶褐色のハヤブサ類で、体が細くて尾が長い。北海道、東北地方から中部地方にかけての本州で繁殖している。

開けた場所が近くにある崖や林で繁殖するが、近年、街なかのビルや鉄橋下などでの繁殖が多く知られるようになった。

繁殖は単独で行う場合とコロニーを形成する場合がある。産卵数は通常3～6個。冬は各地の開けた場所で見られる。



体育館にとまる成鳥雌 (6/5)

## 営巣位置

巣そのものは確認できませんでしたが、防衛行動、幼鳥の行動等から玉川学園記念体育館と推定しました。

ここでは以前にも繁殖した実績があり、複数つがいの営巣も確認されたことがあります。本年度は1つがいを確認しました。

## 繁殖経過 (巣立ちからの推定)

4月5～10日ごろ 産卵  
5月5～10日ごろ ふ化  
6月11日 家族群の飛翔を確認  
7月前半ごろ 幼鳥の分散

\*記念体育館の南側の1辺では、ハシブトガラスの繁殖を確認しました。ハシブトガラスの巣は3月15日の時点で形ができあがっており、5月30日ごろ幼鳥が巣立ちました。

なお、本年度、奈良川源流域ではカラス類の巣を他にも2個確認しており、それぞれ鉄塔、ヒマラヤヤシギに架巢していました。

## 観察結果抜粋

3月15日  
記念体育館近くにて、飛翔を確認し



成鳥雌?の飛翔 (5/14)

ました。

3月28日  
ピルルルル...という甘えるような鳴き声で鳴いていました。

4月4日

ケツケツケ、キュルルル...と鳴き声が聞こえました。雄の求愛と雌の受け入れの声と思われました。

4月24日

このころから、記念体育館または近くの木にとまっているのをよく見かけるようになりました。

4月26日

東方向から記念体育館に向かって、餌を足に持ち飛翔していました。

5月22日

雌がとまっている近くに雄が飛来し、餌を受け渡した様子でした。

5月26日

体育館から約二百メートル離れたハシブトガラスの巣のある鉄塔のてっぺん近くにとまって



餌(鳥類)を運ぶ (6/11)

いました。ハシブトガラスに追われてとびたち、樹林の陰になり見失いました。

6月6日  
記念体育館の南辺にて、幼鳥の可能性のある個体を確認しました。

6月11日  
家族群と思われる3羽での飛翔、とまりを確認しました。餌の受け渡しもした模様でした。

その後、最大4羽での同時出現を確認したため、幼鳥は少なくとも2羽巣立ったと推測しました。

7月11日  
幼鳥の終認日。

## ツミ (学名: *Accipiter gularis*)



ツミ 成鳥雌 (8/9)

### 一般生態

ヒヨドリかそれより少し大きいくらいの小形のタカ類。北海道〜西表島の平地や低山および亜高山の林で繁殖するが、西日本では少ない。

春と秋に日本各地で渡りが見られるが、本州以西では越冬するものがある。近年、東京の郊外で繁殖するものがある。産卵数は通常3〜5個。

### 営巣位置

玉川学園構内、ヒマラヤスギの樹上  
(詳細は非公開)

### 繁殖経過 (巣立ちからの推定)

6月24日〜30日ごろ 産卵

7月22日ごろ ふ化

8月11日 巣立ち確認

9月前半〜来年春先ごろ 幼鳥の分散

### 観察結果抜粋

6月6日、9日

チョウゲンボウの繁殖する記念体育館上空で、雌雄が同時に飛翔していた。

7月21日

鳴き声 (キーキーキキキ、以下C2とする) が聞こえました。

7月23日

成鳥が針葉樹の樹頂にとまっているのを確認しました。(この日から幼鳥の巣立ち直後まで、ほぼ毎朝、巣の近くの目立つ位置にとまっています)

7月29日

とまっていた木の近くに出現したカラスを、

雌雄で鳴きながら

(C)2×8

回以上)

激しく追いかけてま

した。

8月4日

巣を発



綿羽に覆われたヒナ (8/4)

8月4日  
巣を発



大きくなってきたヒナ (8/6)

見し、ヒナを少なくとも2羽確認(後に3羽と判明)しました。ヒナたちは、ほとんど白い綿羽に包まれており、翼の一部茶色い幼羽が生えてきていました。

8月6日

ヒナたちは、まだかなり白っぽいですが、体型がだいぶ成鳥に近づきつつありました。

8月11日

幼鳥3羽の枝移りを確認しました。まだ3羽とも巣のすぐ近くの枝にいました。



巣立った幼鳥 (8/12)

### ◆参考文献

森岡照明ほか、1995、図鑑日本のワシタカ類、文一総合出版

池田昌枝ほか、1991、南関東都市部におけるチョウゲンボウの繁殖状況と環境特性、strix10:149-159

平野敏明、1994、繁殖期におけるツミ *Accipiter gularis* の鳴き声活動と

空中ディスプレイについて、Strix13:31-39

畑隆弘、2007、ツミ *Accipiter gularis* の繁殖期における日周行動につ

いて、Goshawk 5:27-35

(写真・文 小森谷)



幼鳥 (9/4)

1996年度～2007年度  
公開イベントリスト

私たちは、この11年間、奈良川源流域の里山環境を守るため、周辺住民の方々にもそのすばらしさを実際見て、触れて、感じていただきたいと思います、日本野鳥の会をはじめとする自然保護団体の方々、大学の専門家の先生方をお招きし、様々なイベントを開催してきました。その活動の一端をご紹介します。



ボク、イタチ。この谷戸に棲んでるよ。

- 1996年度 ■ 発表会／お花見会／バードウォッチング／座間谷戸山公園見学会／春の植物観察会／バードウォッチング／開成町ホテルの里見学会／田植え／昆虫観察会／ホテルの会／虫の声を聴く会／稲刈り、脱穀・もみすり／もちつき大会
- 1997年度 ■ バードウォッチング／冬の鳥バードウォッチング／植物観察とお花見の会／田おこし／谷戸・里山の保全について考える会／あぜ付けと田植え／ホテルの夕べ／昆虫観察会／虫の声を聴く会／稲刈り、脱穀、もみすり／収穫祭  
★絶滅危惧種ゼニタナゴの生息地の復元で、WWF JAPANの1998年度自然保護事業助成決定（以後3年間助成金を受け、神奈川県水産総合研究所、玉川大学との共同事業としてゼニタナゴの復元を図る。現在も継続中）
- 1998年度 ■ バードウォッチング／植物観察とお花見の会／バードウォッチング／開成町 ホテル観察会／田植え／田の草取り／ホテルの夕べ／昆虫観察会／ゼニタナゴの池掘り／稲刈り、脱穀／草笛の会／収穫祭
- 1999年度 ■ バードウォッチング／植物観察とお花見の会／昆虫観察会／ホテルの夕べ／虫の声を聴く会／収穫祭／竹の炭焼の準備
- 2000年度 ■ 竹の炭焼／竹の炭焼(炭出し)／バードウォッチング／自然観察とお花見の会／草笛の会／ホテルの夕べ／虫の声を聴く会／収穫祭
- 2001年度 ■ 節分 芋煮会／バードウォッチング／昆虫観察会／虫の声を聴く会／収穫祭
- 2002年度 ■ バードウォッチング／お花見の会／バードウォッチング／昆虫観察会／虫の声を聴く会／収穫祭
- 2003年度 ■ バードウォッチング／お花見の会／植物観察会／昆虫観察会／里山まつり／神奈川県教育委員会制作の学校教育放送番組「わくわくチャレンジー自然たいげんにでかけよう」で紹介される（TVKで放映）／バードウォッチング
- 2004年度 ■ 草笛と野遊びの会／昆虫観察会／里山まつり／学校教育放送番組再放映／本山池の調査／バードウォッチング
- 2005年度 ■ バードウォッチング／お花見の会／昆虫観察会／里山まつり／環境教育シンポジウム『奈良池の保全と環境教育』参加・講演／本山池北側のゼニタナゴ池づくりに協力／
- 2006年度 ■ バードウォッチング・お花見の会／昆虫観察会／里山まつり
- 2007年度 ■ お花見の会・里山吟行／バードウォッチング／昆虫観察会／

★定期的な活動として、毎月第1・第3土曜日に、花壇の手入れ、里山公園のボランティア管理などを行っています。また、調査活動として、会員による、鳥類調査、昆虫調査、植物調査を行っています。

★2005年に、NHKが企画した、テレビの番組づくりを体験しながら、放送の仕組みを知ってもらう「NHK放送体験クラブ」に、奈良小学校の5年生が参加し、自分たちの番組を作っています。生徒自身が、キャスターやレポーターになって構成、取材を行い、NHK横浜放送局のスタジオで制作したものです。5年生の4クラスのうち2クラスが、奈良川源流域を守る会の活動を紹介し、1日遊んでも飽きないところ、この環境を守っていききたい、と奈良川源流域をレポートしています。

★当会では、これまで、奈良小学校の総合教育に協力し、里山の案内なども行っています。

あなたのご意見を横浜市に

「奈良川源流域を守る会」では、貴重な環境を守るため、これまで横浜市各局と協議を重ねてきました。また、小川の復元、遊休地の活用など、各種の要望も出てきています。

二期目の中田横浜市長は、積極的に市民の声を生かした、市民のための行政に取り組んでいます。この貴重な里山環境を守るためのご意見、ご提案がありましたら、以下の行政の窓口にご意見をお寄せください。



本山池に飛来したカワウ。本山池はカワセミの餌場にもなっています。

■「市民からの提案」は、郵送、FAX、インターネット、Eメールで受け付けています。受付は、青葉区役所区政推進課（電話：〇四五―九七八―二二二二）、FAX：〇四五―九七八―二四一一）です。

○ご利用方法

市の施設（区役所、地区センターなど）や、駅などにある「横浜市PRボックス」に、「市民からの提案」専用封筒と使せんがあります。

また、私製の封書・はがき・FAXでも受け付けています。「市民からの提案」と明記のうえ、住所・氏名・電話番号を記入して提出してください。

入会のご案内（入会随時）

- ▼会費／年間二千元（家族は無料）
- ▼会員の方には、会報「カワセミだより」をお送りします。また、定例会のお知らせをするほか、随時行事のご案内をいたします。
- ▼連絡先／「奈良川源流域を守る会」事務局 電話（FAX兼用）〇四五―九六二―四四七六「山田」(e-mail:nara@yato.jp)
- ▼インターネット上の当会のホームページでは、活動の内容と、会報のバックナンバーをご覧いただけます。(http://nara.yato.jp)
- \*源流域の谷戸内の緑山ハーブガーデン「ナチュラパス」(〇四五―九六二―一六八三)でも随時入会の受付をしています。
- ▼一緒に、谷戸で草花を育てたり、里山公園の手入れをしませんか。活動日は、毎月第一・第三土曜日です。草花の世話は、状況に応じて木曜日にも行う場合があります。事務局までご連絡ください。

●編集後記

当会は発足当初から、各界の専門家の方々のアドバイスや、地域の方々のご支援をいただきながら、活動を続けてきました。また、実際に谷戸で活動するだけでなく、その活動の経験に基づいたいくつかの提案を横浜市にしてみました。奈良川の源流付近の柵渠を元の小川に復元する生態系回復プロジェクトを実施すること、横浜市が所有する谷戸内の休耕田を、暫定的にでも子どもたちの遊び場、環境教育の場として有効利用すること、里山公園の管理を環境保護に携わる市民団体に委託すること、などです。

これらの提案は、いまだに実現していません。例えば、谷戸の休耕田は二十年近くも草刈り費用をかけて管理されていますが、これでは市民の貴重な財産を死蔵していることになりそうです。これによって、地域の子供たちが、自然と触れあい、学ぶ機会をどれほど失ってきたことでしょうか。市長の掲げている理念と、実際の市の組織としての動きには、まだまだ大きな隔たりがあるようです。(山田)